



教会テーマ『勇気と寛大な心をもって出かけて行きなさい』（教皇フランシスコ） — 「ミッション2030」 — 共同体を生きる

よろしくお願ひします

4月から助任司祭として働きだしたボニー・ジェームスです。ボニー神父と呼んでいただければ幸いです。短い間でしたが以前（2014年7月1日〜2015年3月末日）も当教会で働いたことがあります。その時、温かく迎え入れてくださった神父様方と信者の皆さんに感謝の気持ちとともに再びお会いできるのを楽しみにしています。

今回、聖イグナチオ教会司祭に任命される前に、第三修練のためケニアのナイロビにあるイエズス会の黙想の家で6か月過ごしました。自然豊かなアフリカの



ボニー・ジェームス神父

大地で一番印象に残ったのは人々であふれる教会の姿でした。アフリカの教会では若者と子供の数が多くとても賑やかでした。成人洗礼を受ける大人の信者さんの数も多いと感じました。神父やシスターを目標として勉強している若者も少なくないことがわかりました。アメリカやヨーロッパから来て一緒に第三修練をしていた友達や神父たちは、「これからの教会の将来はアフリカにある」と言っていたのが心に残っています。欧米で信者の数が減っている一方、アフリカで増えているのは、教会全体としてよいしるしではないかと思いました。

その後、「司牧ケア」という科目をアメリカで勉強しました。主に教会や学校の現場で人々と関わる時に大切にすべきポイントを、さまざまな形で学ぶことができました。世界のいろいろな国から来て、同じように勉強している神父やシスター、信者さんとの出会い、教会現場で役立つことを分かち合えたことも貴重な体験でした。

私はもともと南インド出身で、2006年に来日し上智大学で神学の勉強をしました。13年に司祭叙階を受けてしばらく聖イグナチオ教会で働いたあと、細江教会（下関・広島教区）で助任司祭として働いていました。同時に山口県の宇部にある小野田高等学校で宗教の授業を担当しました。細江教会で温かく指導してくださいました主任司祭の百瀬文見神父を含め広島地区に働いている神父様方のおかげでいろいろ学ぶことができました。これらのさまざまな勉強や体験を生かしながら働きたいと思っています。まだまだ分からないことがたくさんあるので、今後ともいろいろ指導していただけたらと思います。よろしくお願ひします。

助任司祭
ボニー・ジェームス

教会報 MAGIS 5月号

† ミッション 2030	2 頁	† 献堂 20 周年に寄せて	5 頁
† 献堂 20 周年記念行事	3 頁	† 旧聖堂から新聖堂へのあゆみ	6 頁
† おしえて?おしえて!	3 頁	† 信徒評議員役割担当リスト	7 頁
† 2019 年度信徒評議員から	4 頁	† イエズス会日本宣教史	8 頁



アフリカの元気な子どもたちと

共同体を生きる

5月の共同祈願

いつくしみ深い父なるかみさま
きょうも多くの信徒が心一つにして
祈ることができる恵みを感謝します。

この祈りによって
あなたの福音を多くの人々に伝える力を
いただけますように。

ミッション2030 ー前文ー

私たち聖イグナチオ教会は、祈りにもとづく使徒的共同体を生きていきます。

現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、環境破壊など、未来に希望を見いだしにくい反福音的なものに脅かされています。それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、いつくしみの扉を開いていきます。

私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、貧しい人や弱い人の声を聴き、皆でともに手をたずさえて（日本人も外国人も、若いも若きも）、福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

ウェルカムテーブル始めました

今年度は「共同体を生きる」というテーマを1年を通してともに意識していきたいです。このテーマは、前年度の「福音を伝える」とこと切り離して考えるものではないです。むしろ、それをつなげていく道を歩んでいきたいと思います。

東京教区に生涯養成委員会があり、信徒による入門講座の開設を準備しています（現在、カテキスタ養成講座を実施中）。彼らの議論の中で出てきたことですが、未信者に対して単にキリスト教の基礎知識を提供して洗礼に導くだけでは足りない。それと同時に、共同体に引き入れることが不可欠だという結論に達しました。つまり洗礼を受けるといことは神の子になるだけでなく、教会の一メンバーになることも意味しているのです。そこから教区レベルでウェルカムテーブルを導入しようという動きが生まれました。ウェルカムテーブルというのは、教会になじみのない人が共同体に入るための手助けをするものです。

東京教区の提案に従って、イグナチオ教会でも4月からウェルカムテーブルをスタートすることになりました。日曜日の午

前中にテーブルを出して、教会になじみのない方々が相談したり、話したりする場として始めます。単なる教会案内や、受付のような対応だけでなく、その人が共同体に入っていく手伝いを目指しています。

そのような目的で始まりましたが、ウェルカム（迎え入れ）の態度は、教会に来ていすべの信徒が持つていてほしい態度です。庭にいるウェルカムテーブルのスタッフ（聖堂内では聖堂係）に任せるだけでなく、皆さん一人ひとりそのような迎え入れの態度を示すようにしてください。例えば、ミサ中隣りに座られた方が慣れておられない場合、さりげなくフオローするとか。敷地内をウロウロされている方に対して適切な案内をしてあげるといふような、さりげない思いやりの態度です。

現代の日本社会は以前の共同体（血縁・地縁・社縁など）が弱くなり、若い人も老人も孤立が進んでいます。共同体的なきずなを

回復すること自体が、福音宣教に結びついていると思います。

既存の活動グループに属している方々は、ぜひとも新しいメンバーを積極的に引き入れるようにしてください。新しいメンバーにも教会内に居場所が必要ですから。

実際イエズス会でも一昔前はとても個人主義でした。ところが現代は共同体の大切さを強く意識するようになってきました。福音宣教と共同体作りは切り離せないものだという認識はイエズス会でも東京教区でも強く意識されています。福音の喜びを共同体で分かち合うことこそ、最高の喜びではないでしょうか。そのような開かれた心で、「共同体を生きる」年を過ごしていきたいものです。どうぞ、よろしくお願いします。

主任司祭 英 隆一朗

information
お気軽に何でも
お聞きください!
+ 教会について
+ ミサについて
+ お祈りについて
その他どんなことでも。
Welcome Table
St. Ignatius Church

献堂 20周年記念行事について

【テーマ】「共同体を生きる」－過去から未来へ－ “つながり” から “ひろがり” へ

【主旨】今年の6月6日で献堂20周年を迎えます。司祭、修道者、信徒が多くの支援者や専門家の協力を得て、互いに手を携えて主聖堂を献堂しました。その当時は振り返りさらに未来へとつなげていく教会共同体の姿を考えます。また、この20年間で外国人信徒が増え、教会は広がってきています。信徒同士のつながりの中で、今年度テーマ「共同体を生きる」との関わりを考え、次年度テーマの「きょうどう」へつなげる一歩といたしましょう。

【開催日時】2019年6月9日（日）12時～16時

- 国際ナショナル野外ミサ（主聖堂前庭・主聖堂・マリア聖堂）12：00～13：30
- 記念講演とパネルディスカッション（主聖堂）14：00～15：30
 献堂当時を振り返り、さらに未来へひろがり、つなげていく教会共同体の姿を考える企画です。これまでお世話になった懐かしい神父様をご出席予定です。
 ・基調講演：村上晶子氏（教会設計者）（通訳有り）
 ・パネルディスカッション：英 隆一朗主任司祭&信徒
- 国際ナショナルプラザ（ヨセフホール・テレジアホール・回廊・岐部ピロティ）9：30～15：30
 各国の歌や踊り、お食事や歓談を通して献堂20周年の喜びを分かち合う国際交流の場です。歴史を振り返る写真パネル、教会学校の子どもの絵を展示します。
 ・ステージパフォーマンス（ヨセフホール舞台など）14：00～15：30
- 交流会（テレジアホール）15：40～16：00
 主聖堂での講演会終了後、ご出席された歴代の神父様方との歓談をお楽しみいただく場です。

【当日のお食事について】

- ・お食事は各自持参可能です。
- ・メリエンダは通常通り9：30よりオープンいたします。ヨセフホールも9：30からオープンしております。

【献堂20周年記念品】

- ・当日、お越し頂いた皆様には記念品をお渡しいたします。ただし、数に限りがありますので、全ての方にお渡しできない場合もあります。どうぞご承知おきください。

献堂20周年記念行事実行委員会



「E」聖体って?

2018年受洗の新米信徒の素朴な疑問、第2回は「E」聖体って?。ミサでは「感謝の祭儀」において「聖体」と呼ばれるパンをいただきます。どのような意味があるのか、英隆一朗主任司祭に教えていただきました。（編集スタッフ・E）

【E】「聖体」とは、聖書に描かれる「最後の晩さん」を記念したものだと神父様から教わったことがあります。普通のパンとは違い何が特別なのでしょう? 「パン」といっても教会でいただくパンはおせんべいのようなのですが?

【英神父】若者向け教理書『YOU CAT』（カトリック中央協議会刊）も参照していただきたいですが、ご聖体とはイエスのからだです。そもそもはイエスが死の前夜、弟子たちと最後の晩さんをすごされたときがルーツです。ここでイエスは、感謝の祈りをささげてからパンを手で裂き、言われました。「これはあなたがたのためにわたされるわたしのからだである。これをわたしの記念として行いなさい」(第1コリント11:24)。これが「感謝の祭儀」の始まり。これはイエス本人が始められ、教会が始まって以来ずっと行われてきました。信徒の交わりの心臓部分とも言われる重要な儀式です。

パンにふくらみがないのは、聖書に登場するのが「たねなしパン」というイースト菌で発酵させないものだからです。

【E】交わりの心臓部分というわけは?

【英神父】『YOU CAT』によれば「E」聖体をいただくことで、わたしたちは十字架の上でその体をお与えになったイエスの愛の一つになるからです。私たちの体とイエスが一体になるということは、仮に「ぶさわしくないままで主のパンを食べ(る)」「ようなことをすると、「主の体(と血)」に対して罪を犯す」(第1コリント11:27)ことになってしまいます。洗礼を受けていない人が聖体拝領に与ることができないのも、そのようなことになるのを避けるためです。

【E】聖体拝領の際にひざまずいて口で受ける方もいますが、どちらがよいのでしょうか?

【英神父】司教団の指針では、聖体拝領は立ったままで受けるように定めています。みなが同じ姿勢で拝領することで教会の一致を図っている意味もあるでしょう。

2019年度に思いをこめて

2019年度の信徒代表を務めさせていただくことになりました。

もとより至らぬ者でありますので、皆様方のお祈りと助けを願いながらこの1年を歩んで参りたいと思っております。どうぞよろしくお祈りいたします。

今年度は献堂20周年の記念の年です。

第2バチカン公会議後の意識の刷新に基づき、多くの人たちの祈りと知恵と力の結晶として建立された現聖堂が20周年を迎えます。これから更に次の世代の祈りと思いを含み込みながら引き継がれていくことでしょうか。

今年度はまた、「勇気と寛大な心をもって出かけて行きなさい」と言われたフランシスコ教皇様の来日をお迎えする年でもあります。

日本のカトリック教会はもちろん、キリストを信じる人たちが、そうでない人たちにとつても、信仰の奮起と目覚めをもたらせていただける機会となることを祈念しております。

このように喜ばしいことのも多い年ではありますが、昨年5月にはケルクマン神父様・佐々木神父様の相次いでのご帰天

により、その時は教会じゅうが悲しみに沈んだ思いがいたしました。今は天国からお二人の神父様が私たちの祈りを受けて、教会を見守っていて下さることを力強く思います。

今年度の教会のテーマである「共同体を生きる」ことが、英主任神父様のもと、全ての世代や外国語グループも含めて広く、深く、暖かく浸透していくことができそうです。

また、この教会には多くのことを求めて来訪される人たちがあります。社会の縮図であるようなこの教会は、求められることも、課題も多々ありますが、「わたしは弱いときこそ、強い」(IIコリント12・10)との聖パウロの言葉をかみしめながら、神様の力強いお導きに信頼し、委ねて、歩みを進めていくよう努めて参りたいと思えます。

最後に私的なことながら、今年度は受洗から50年目になります。受洗後の日々を、神様のお恵みによりどうにか生きていくことができました。少しは教会に恩返しをしなさいと言われているのかもしれない。

信徒代表 蔵 廣子

新信徒評議員から (50音順)

家田 教子

イグナチオ教会で受洗して26年、現在、スペイン語ミサ聖堂係として、奉仕をさせていただいております。

これまでこの教会で、多くの人との関わりを通して、ともに祈り、豊かなお恵みをいただきました。このことへの感謝の気持ちを忘れずに、そして常に謙虚に、皆様にお教えいただきながら、このたびの信徒評議員のお役をしっかりと務めたいと思っております。

力不足で至らぬ点が多々あるかと思っておりますが、どうぞよろしくお祈りいたします。

石井 創

以前より、第2朗読グループと結婚講座に携わらせて頂いております。この度ご指名をいただいたことにつき、主任司祭、皆様に心より感謝致します。大した能力も実績も持ち合わせていない私ではございますが、できる限り誠意を尽くして務めさせて頂きたいと存じます。

皆様、どうぞよろしくお祈りいたします。

尾羽 正帆

この度、信徒評議員に任命されました尾羽正帆です。私が初めて教会運営に携わらせて頂いたのは、丁度新しい教会の献堂式に向かって信徒が突き進んでいた時でした。その献堂から20年という節目の年に再び信徒評議員を務めることになりとても不思議な気持ちですが、諸先輩方から教えて頂いた知恵と信徒の皆さまのお力をお借りして、将来の教会の在り方を考えていきたいと思っております。どうぞ宜しくお祈り致します

小宮山 延子

1947年麹町教会は東京大司教区からイエズス会に委託され、口ヨラの聖イグナチオに奉獻された聖堂が1949年竣工し、献堂式が挙行されました。その後半世紀が経ち聖堂の老朽化と信徒の急激な増加もあり1999年現在の建物が建てられました。今年2019年がイエズス会に東京教区から託された献堂式から70周年、現在の聖堂再建から20周年の新たな節目であることに驚きました。皆様のお祈りとご奉仕と友情に支えられ共に歩ませて頂きたく思います。

島津 由美子

聖イグナチオ教会にお世話になって12年目、と感慨にひたっていたのもつかの間、想定外の重責を担うこととなりました。苦杯をはちみつに変えることができたらよいのに・・・。「今日一日を精一杯、心のあたたかさを忘れずに」この思いをもって、あとはひたすらイエズさまにおすがりして歩んでまいりたいと思っております。

トレードマークはユニークなめがねです。どうぞよろしくお祈りいたします。

戸田 功

この度、評議員を拝命しましたが、私は初めの一步のヘルパーを永年勤めて来ましたが、信仰的には未熟者ですが、キリストの体の一部との認識の元、教会の全体活動にも奉仕出来ればと決意しました。

イグナチオ教会は信徒規模や国際性の点で特異な環境に有りますが、ミッション2030の目標に沿って責務を果たしたいと思っております。その為、皆様の声に耳を傾け、少しでも反映すべく尽力しますので、ご協力の程宜しくお祈り致します。

献堂20周年に寄せて

第二次世界大戦が終わった時にたくさん日本人が生きてきた目標を失い大変苦しんでいました。そのような時代にイグナチオ教会は生まれまじた。教会の体すなわち教会の建物の責任者はビタ神父とブラザー・グロツパ、その魂はホイベルス神父でありました。教会はたくさん日本人に命、喜び、生きる目標を与えました。洗礼、ミサ、典礼、聖書の教理勉強、福祉活動、音楽とコーラス、教会の葬儀、結婚式など教会で行われるあらゆる事が、隣にある上智大学の司祭に支えられながら司祭と信徒たちが一致協力しみごとに栄えていきまし



ルイス・カンガス神父

た。しかし、ホイベルス神父が40年間教会に与えてくださった魂は生き生きしていません。建物も戦争直後に建てられ建築材料は満足できるものではなく、大きな地震が起こったら危険だと言われ、新たに建てる必要が出てきました。旧教会はとも愛されていたので、それを壊すのに反対の意見や新しい教会は旧教会と同じ形であるようにと願った人々も多くありました。結果的には、とにかく多くの信者の方々が新しい教会を建てるために心を合わせてより良い方向に事を運ぶ努力を惜しまず建築に関わったので、みごとに共同体全体が生き生きと新しい力を出していききました。この責任とその力は、いまでも引き継がれ、大きな共同体が生かされています。日本人だけではなく外国の方々も増えています。イグナチオ教会は、イエズス会、信徒、司祭団そして上智大学、雙葉の協力によって多くの方々に影響を与えています。

新聖堂建築に関わった多くの方々、困難な問題を乗り越え結論に導いていった事柄の中で、いくつか特に印象に残っていることを記します。一つは、祭壇のイエズスの十字架像の問題でした。イエズスの十字架像は、初めて教会を訪れた方や子どもにとって少しインパクトが強すぎるという意見がありました。そこで祭壇背面の壁に十字架を刻み込みそこから浮き上がるように復活のキリスト像をデザインし、聖堂全体をイエズスの慈しみで包み込むようにしました。二つ目は、旧聖堂を懐かしむ方々のためにも、跡形もなくそれを壊してしまうのではなく、ステンドグラス、洗礼盤、マリアとイエズスのご像などをできる限り生かそうと考へ、新しい納骨堂にそれらを移すことに決めました。三つ目は最後に頭を悩ませた教会が完成した時、全ての恩人の方々を招待するのにはどうしたらよいかという事でした。皆さんが知恵を絞った結果、すべての恩人を招待することは叶わないので、恩人のお名前をすべて筆で書き、その巻物を復活のキリストの足

元の壁の中に収めました。それは今でも入っています。また、遷堂式ミサについて、池尻神父が「教会と言うのは形（建物）ではなく魂（心）なので、旧教会の魂を新教会に移すことにしましょう。遷堂式ミサは、はじめ旧聖堂で共同祈願までを行い、その後旧聖堂の魂を新聖堂へ移すためにマリア像を「おみこし」にして新聖堂に運び、続いて新聖堂でミサを奉献から派遣の祝福まで行いましょう。これにより教会の魂は新しい教会に移され、多くの方々がミサに与れます」と提案されました。これは私たちの悩みを一気に解決し皆感動をもってそれに賛成しました。当日は、朝から8回のミサが両方の聖堂で次から次へと司式され、その全てのミサで「マリア様のおみこし」は旧聖堂から新聖堂へと運ばれました。これにより旧教会と新教会は一つになり大きな喜びをもって盛大な遷堂式ミサとなりました。



「マリア様のおみこし」を先頭に旧聖堂から新聖堂への遷堂式

ています。このあゆみを若い方に知っていただくのも今後のためにとても良いことだと思います。

当時を振り返ると思い出は尽きることなくあります。しかし、今、私の一番嬉しい事は、皆さんが神様の恵を受け、主任司祭のもとで一致し共同体を生き生きと生きていることです。

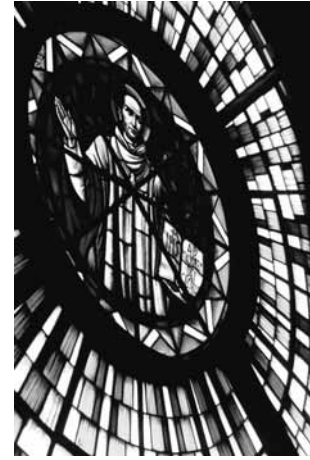
イエズス会 ルイス・カンガス
1926年 スペイン生まれ
麹町教会にて
1966年5月〜1982年3月 助任司祭
1982年4月〜1998年3月 主任司祭
現在 山口教会助任司祭

旧聖堂から新聖堂へのあゆみ

イエズス会 ルイス・カンガス

建築が決まってから建築家や設計者は、典礼とイグナチオ教会の特徴について細部に亘って司祭と信徒の知恵を求めてきました。また、ドイツに行き、あらゆる教会を廻り、様々な事を見学し勉強しました。建築に関係のない祭具や祭服のことまで、本当に細かい事までメモを取り写真に収めていました。その努力の結果が今の教会に全て生かされていると思っています。このようにできたのは、ドイツのケルンの大司教の大きな協力によることであつたから実現できたことでした。

建築家や設計者たちの熱心さ



旧聖堂正面を飾った聖イグナチオのステンドグラスは現在のマリア聖堂正面に移設されました。



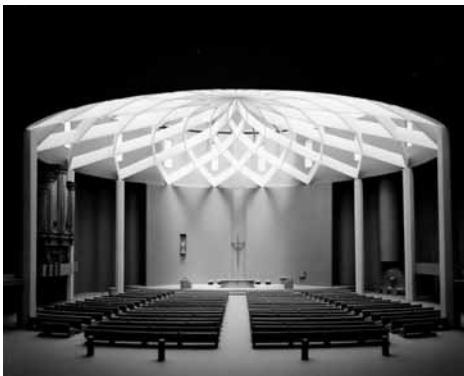
1949年4月17日
旧聖堂の献堂

旧聖堂内部



旧聖堂と新聖堂が一時並んでいました。

新聖堂計画初期の聖堂内部模型。
パイプオルガンが左側に配置されています。



信徒会館は、最初の計画は12階の建物を建てる構想がありました。6階までを信徒会館として、6階以上をある企業が使うという提案でした。しかし、ある小教区でそのような形で運営したが、とつても大変でメリットはないという話を聞きました。また、ある不動産会社の社長（信徒）にこの話をどう思うかの意見を伺った。その方は、会社の部署の方々に調べさせて膨大な資料を作り、やはり結論は止めた方が良くということでした。そんな経緯を経て今の信徒会館は出来上がり、教会活動の拠点となっています。

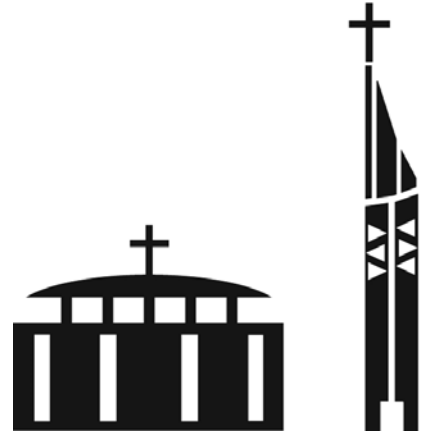
信徒会館のこと

新聖堂計画初期の全景模型





2019年度宣教司牧評議会



2019年信徒評議員役割担当リスト (敬省略、順不同)

信徒代表	蔵廣子
副代表	楠本祐司 松橋豊子
書記	小澤眞行 小宮山延子
会計	蔵廣子 島津由美子
総務	谷口央樹 関真澄 戸田功 家田教子

ミッション2030の4つの柱を軸にした役割担当

- * **祈りを深める** 谷口央樹 尾羽正帆
・ 典礼 松橋豊子 尾羽正帆
- * **福音を伝える** 小澤眞行 石井創
・ 広報 楠本祐司 谷口央樹 松橋豊子 戸田功 家田教子 島津由美子
・ 講座 楠本祐司 島津由美子
- * **共同体を生きる** 松橋豊子 関真澄 石井創 家田教子
・ 教会学校 小澤眞行 尾羽正帆
・ 国際 松橋豊子 小宮山延子
・ 活動グループ 楠本祐司 石井創 小宮山延子
・ 信徒交流 関真澄 戸田功
・ 福祉関連 関真澄 石井創
- * **新しい「きょうどう」** 楠本祐司 小宮山延子 島津由美子
・ 宣教協力体 蔵廣子 小澤眞行 戸田功 家田教子
- * **ミッション2030小委員会** 蔵廣子 松橋豊子 尾羽正帆 家田教子

行事関係

- ・ 献堂20周年記念行事 蔵廣子 楠本祐司
- ・ 行事連絡会 蔵廣子 楠本祐司 小宮山延子 島津由美子
- ・ 教勢調査 小澤眞行 小宮山延子
- ・ 結婚感謝ミサ、金婚銀婚記念証書 小澤眞行 小宮山延子
- ・ 黙想会 松橋豊子 尾羽正帆
- ・ クリスマスバザー 関(オブザーバー)
- ・ クリスマスイヴミサ 楠本祐司 谷口央樹 石井創 尾羽正帆
- ・ 復活祭 楠本祐司 松橋豊子 戸田功 家田教子

イエズス会日本宣教470年②

聖霊の働き——宣教・霊操は「宗教分界線」を超えた

司祭・上智大学史学科教授 川村信二



川村信三神父

イエズス会が誕生した16世紀は、世界が大きく変わり始めた時代でした。コロンブスがアメリカ大陸に到達したのは15世紀末ですが、1500年を基点として技術革新、都市への人口集中、海外への進出などが始まりました。それまで何世紀も変わることなかった世界が劇的な変化に入っていました。

この違いはアジアでの宣教にも現れました。先に来た修道会は現地の文化を考慮することなく、自分たちの教会のあり方をそのまま広めようとしていました。欧州で完成された形のキリスト教を持ち込みました。イエズス会も初めは同じで、聖フランシスコ・ザビエルがインドに来た当初はそうした発想でした。つまり、現地の人びとに宣教するというよりは、ヨーロッパ人植民者のための活動を当初は念頭においていたのです。しかし、ザビエルはその枠を越えていきました。

一方で、西側から来て初めてポーターを超えていく宣教をしたのがザビエルでした。ザビエルは、ゴアの風紀の乱れを取るためポルトガル国王が送り込んだイエズス会士でした。しかし、インドの東海岸でヒンズー教徒を相手に本格的な宣教を始めました。現地の人々にもキリスト教の救いが必要だと、カトリック教会に入らないと人々が救われないと考え、ついには東の果ての日本にまで来たのです。

ザビエルたちの冒険は、現代ならスペースシャトルや小惑星探査機はやぶさ2で宇宙を目指すような人たちと同じ発想だったと言えます。全く未知のものに出会い、従来のやり方では通用しない限界にぶつかる。でもそれを超えていこうと挑戦し続けたところにザビエルのすごさがあります。

日本へ来たきっかけは、薩摩出身のヤジロウとの出会いでした。日本人がこの青年のようにならなければ、絶対的な救いを理解する理性を持つと考えたのです。当時、欧州では「神を理解する力」「理性的魂」が人間の条件であると考へられていました。ザビエルは、日本人がこの理性を持つ人たちだと思ったのです。



「巡礼者のザビエル」 ドイツ 17世紀 木彫

ケルクマン神父様、佐々木神父様の追悼ミサ

昨年相次いで帰天されたケルクマン神父様（2018年5月15日帰天）、佐々木神父様（2018年5月23日帰天）の追悼ミサをいたします。

5月18日（土） 12:00 主聖堂

新聖体奉仕者任命

4月21日（復活の主日）のミサで次の8名の方が新しく聖体奉仕者に任命されました。（敬称略 50音順）

石川りみ子	岩崎悦子	小島修矢	柴田千枝子
島田みぎわ	鈴木司郎	竹内陽子	若林和久

金婚式・銀婚式を迎えられる方々へ

聖イグナチオ教会では、当教会所属の信徒で今年結婚生活50周年、25周年をお迎えになる方々のために、バチカンが発行する「金婚式・銀婚式祝福記念証書」を授与できるように手配させていただいています。

ご希望の方は、聖堂前室の案内チラシをご覧の上、申込書に必要事項を記入して、教会事務室に提出されるか、郵送またはFaxにてお申し込みください。

申込締切は 6月30日（日）（厳守）

祝福記念証書は10月6日（日）10時、結婚感謝ミサにおいて授与されます。

5月の典礼と行事

3 金	初金曜日	祈りの集い(テゼ) 19:00	
5 日	復活節第3主日	改宗式 10:00 ミサ 司祭歓迎会と司祭叙階金祝お祝い会 10:00 ミサ後 ヨセフホール	
6 月		オルガンと祈り「ともに賛美をささげよう」 13:30 主聖堂	
8 水		水曜ティーサロン 12:00 ミサ後 傾聴ルーム 13:00～15:00 ヨセフホール	
12 日	復活節第4主日	子どもとともにささげるミサ 10:00 堅信準備会① 11:15 “パパ ママ ごほん よんで!!” 11:15 203 B号室	世界召命祈願の日
15 水		クリプタに安置され5月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後 傾聴ルーム 13:00～15:00 ヨセフホール 堅信準備会(平日④) 18:45 『社会問題とカトリック教会の考え 2019年度連続セミナー』 教皇フランシスコの社会問題についてのメッセージ - 教皇回勅・使徒的勧告・スピーチから - 18:30 アルペホール「教皇になる前 I」 - 独裁軍事政権下で - 講師: ホアン・アイダル 神父	
18 土		ケルクマン神父様と佐々木神父様の追悼ミサ 12:00 主聖堂	
19 日	復活節第5主日	堅信準備会② 11:15 ミサがわかるセミナー 13:00 ヨセフホール 「私たちの祈り」としてのミサ 講師: 石井 祥裕 氏	
22 水		水曜ティーサロン 12:00 ミサ後 傾聴ルーム 13:00～15:00 ヨセフホール 堅信準備会(平日②) 18:45	
26 日	復活節第6主日	堅信準備会③ 11:15 教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール	世界広報の日・献金
29 水		堅信準備会(平日③) 18:45	
30 木		ヤングオールド映画会『マザーテレサの遺言』 13:30 ヨセフホール	

* 予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel

7:00 / 12:00 / 18:00

【日曜日 Sunday】主聖堂 Main Chapel

土曜 18:00 / 7:00 / 8:30 / 10:00 / 18:00
12:00 (English) / 13:30 (Español)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Main Chapel 15:00 (Việt Nam)
Our Lady's Chapel 12:30 (Português) 16:00 (Polski)
Xavier Chapel 16:00 (Indonesian)

【月の第3日曜日 3rd Sunday】

Main Chapel 15:00 (Việt Nam)
Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

主任司祭: 英 隆一朗

助任司祭: ボニー・ジェームス

李 相源

田丸 篤

協力司祭: ヘネロソ・フローレス

ハビエル・ガラルダ

ブラザー: 吉羽 弘明

シスター: イベッテ・サンチェス

(セントロ・ロヨラ)

ローズ・レミジオ

(ジョン・デ・ブリッド イングリッシュセンター)

カトリック麹町教会 (聖イグナチオ教会)

〒102-0083 千代田区麹町6-5-1

TEL 03-3263-4584 FAX 03-3263-4585

ホームページアドレス: <http://www.ignatius.gr.jp>